

令和5年度北海道美深高等養護学校あいべつ校 第3回学校運営協議会 会議録

1 日時 令和6年(2024年)2月20日(火) 10:30~12:00

2 場所 北海道美深高等養護学校あいべつ校 視聴覚室

3 出席者

(1) 学校運営協議会委員

氏名	所属等
片桐正敏	北海道教育大学旭川校 教授
長屋修二	愛別町商工会 会長
鈴木彰	愛別町社会福祉協議会 会長
藤原ゆき	美深高等養護学校あいべつ校PTA会長
濱裕晃	北海道美深高等養護学校 校長

(2) 本校職員

氏名	所属等
太田勉	進路指導部長
桑名優介	生徒指導部長
梶原淳	教頭
助安由紀子	事務部(事務主任)

4 校長挨拶

生徒たちは感染症による罹患も少なく、元気に過ごしている。先週は全校終日作業で町内施設や団地などの除雪を3日間行い、地域に貢献することで生徒たちは達成感を得ることができたと思う。愛別町に日ごろの感謝の気持ちを伝えることができました。本日も授業を参観いただき、魅力ある学校作りに向けて活発な意見をいただきたいと思います。

5 日程説明 教頭から日程の説明

6 授業見学

1 学年 企業内作業事後学習(報告会の準備、礼状書き)

2、3 学年 【食品分野】 調理実習(3年生への感謝ランチの準備)

【栽培分野】 木工作业(卒業証書作成)、乾燥作業(きんぴらの袋詰め)

## 7 説明

### (1) 学校評価について(教頭より)

ア 生徒学校評価では、進路指導、学習指導、生徒指導において、卒業後の進路や社会のルール、学習場面での目標やねらいを生徒が意識して主体的に取り組むことができていることが結果から読み取ることができた。生徒用シラバスを生徒たちも認識しながら学習に取り組んでいる結果と思われる。反面、自己有用感や信頼関係において満足度が低く、対人関係での困り感やコミュニケーション不足が見られた。

イ 保護者学校評価では、全体的に A(十分である)、B(おおむね十分である)の値が昨年度より高くなっているが、Aの値だけ見ると先年度を下回っている傾向が見られた。Aの値が増加するように今の取り組みをより良いものに改善する意識を持つことが必要であると捉えている。

ウ 教職員学校評価では、保護者の傾向と同様に Aの値が昨年度よりも低くなっており、Aの値が増加するように今の取り組みをより良いものに改善する意識を持つことが必要であると捉えている。

### (2) 令和6年度学校経営について(校長より)

ア PDCA サイクルの Plan で、「身につけさせたい資質・能力」とあったが、来年度は生徒を主体に考え「身につけてほしい資質・能力」と改めた。このサイクルを回す原動力には地域の支え、生徒のチャレンジを支える学校、教職員の支援からなるコミュニティースクールが欠かせないので、今後も学校運営協議会とあいべつ校協会の協力を、PTA とが連携して学校経営を進めていきたいので、ご協力をお願いします。

### (3) 令和5年度卒業生進路一覧について(進路部太田より)

ア 16名の卒業生のうち11名が一般就労、5名が福祉的就労に進路先が決まっている。学校になかなか通えなかった生徒もいるが、卒業をしたい意思と進路先を決めたい希望があり、進路について何度となく相談を重ね、見学や実習には参加することができたことで、生徒自ら進路を蹴っていることができた。

イ (片桐氏) 一般就労の労働条件はどうなっているか教えてほしい。

ウ (太田より) 正社員はごくわずか。多くはパート雇用であるが、本人の自立のため社会保険が適用になるよう勤務時間を長めに調整してもらっている。

### (4) 地域と連携した教育活動について(資料説明、教頭より)

ア 広報あいべつや本校のホームページの紹介を、資料を基に説明する。販売会などで配布する学校のリーフレットにホームページにリンクする QR コードを今年度から掲載することにした。

## 8 協議【次年度に向けた魅力ある学校作りについて】

### (1) グループ協議について説明(教頭より)

A グループ：片桐氏、鈴木氏、太田教諭、濱校長(4名)

B グループ：長屋氏、藤原氏、助安事務主任、桑名教諭、梶原(5名)

### (2) 各グループでの話し合った内容の発表

ア（A 太田教諭より）

きのこの里フェスティバルへの参加をもっと確立させたい。生徒の活動を知ってもらうことが必要。以前行っていた地域での販売会である「青空市」を開催することは、地域に知ってもらう有効な手段だと思われる。以前やっていたことを改良することで負担は少なく済むのではないかと。また、先週行っていた除雪作業も地域にたいへん喜ばれている活動だと思われる。改良改善して良も貢献できる活動にすることもできると思われる。きのこの里フェスティバルへの参画には今後も協力して、あいべつ校をアピールできたら良いと思う。あいの里高支では地域の企業と連携して販売会を行っている。

イ（B 教頭より）

きのこの里フェスティバルであいべつ校の製品を買いたいというお客様が多かったので、工夫ができれば良いと思う。食堂サービスでのコーヒーを扱う学習も広がっていく可能性が大きい（出張販売や旭川高支とのコラボなど）。生徒数の減少が見られるので販売数を多くすることが困難かもしれないが、町と連携して、小学校に入学した児童数や中学校卒業の児童数であれば事前に数を把握できるので、祝い事の記念品を作って、生徒から贈呈する企画もあって良いと思う（町ではお子さんが生まれたらハッピーボンの花火打ち上げ、成人式にはスマホスタンドを贈呈している）。

#### 9 協議のまとめ（片桐氏より）

いろんな意見が出て、可能性が広がったと思う。生徒が主体的に動ける活動が今後もできるよう工夫していけたら良いと思う。自分たちよりも年齢が下の子どもとの交流もあって良いと思う。愛別町に住んでいる子どもとのつながりは地域に根付く取り組みになる。インターネットを活用した広報活動も有効である。

#### 10 校長挨拶 第3回学校運営協議会開催についての謝辞

片桐氏よりあったように持続可能なこれまでの取り組みを生かした活動ができれば良いと思う。今後も持続可能な学校運営協議会も目指していけたら良いと思うので、これからもよろしく願います。